
「人が涙を流す訳」

AKIRA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「人が涙を流す訳」

【Nコード】

N1151A

【作者名】

AKIRA

【あらすじ】

感情を持ったロボットの、少し未来の物語。泣くことだけが出来ないロボットが最後に気が付く、人が涙を流す理由、その理由に気が付く物語。

人が涙を流す訳、僕は泣く意味が良く分からない、怒り、悲しみ、
歓喜、涙の形はたくさんあるけど、僕は泣けないんだ。

だって僕はロボットだから・・・。

技術の進歩により、人の感情である喜怒哀楽の、感情ソフトっていうやつが、僕の頭に組み込まれてるらしい、いつか博士が言っていた。

そして博士は、名前の無い僕のことを、こう呼ぶようになった。

「優^{ゆう}」と。

優れた感情と、優しさを持って欲しいと願いをかけ、この名前にしたんだという。

「よいか優、頭に組み込まれているソフトは、基本のシステムしか構築しておらん。まあ簡単に言うると頭は赤子で、体だけが大人じゃ、今からたくさんさんの経験をして立派な大人になろうな」

僕は頷くと、「良い子だ、良い子だ」と博士は笑い、そのとき初めて僕も笑った。

年月が過ぎ去り、僕はいろんなものを吸収し、言葉の表現力も兼ね

備えていった。

博士は高齢になり、歩くことが困難になり、僕が博士の足代わりとなった。

そんなある日。

「散歩に行こうか優、外は天気だし雨は降らんじやろう」

僕は、雨が唯一駄目だ。

水滴が僕のゴムの皮膚に落ちると、メインスイッチが落ちて動けなくなる仕組みになっているらしい。漏電し、頭の回路がショートしないように設計されたんだって。

そんな仕組みは必要ないと、取り外す様に、何度か博士にお願いしたけど、結局駄目だった。

快晴の中、ゆっくりと、博士を抱きかかえて歩いている。

「気持ちがいいなあ、優、有り難う」

「どういたしまして」笑顔で僕は返した直後、僕の背中に何かが触れた。

バチッ。体を駆け巡る不快感、辺りにたちこめるゴムの焼ける匂い。そして背中越しの男の声。

「おいおい、お前人間か？最高電力を加えても、倒れやしない」近頃、続発している感電強盗だと、僕はすぐに理解した。

注意を呼びかける記事が、たしか電子新聞に書いてあった。

手の中の博士はぐったりとし、呼びかけても、ゆすっても起きない。

僕の頭の中の回路が 異常な熱を発し、頭の中で何かが弾けた。

「うお———」

突然、叫んだ声に犯人は驚いたらしく、その場を後にしたようである。

抱きかかえた博士の顔に黒い粒が落ちる。一つ、二つ、三つ。

抑えきれない怒りと悲しみの感情が押し寄せ、目からとりとめなく、オイルが溢れてくる。

僕は今泣いている、大切な人を失って。

人が涙を流す訳……。

それは、喜怒哀楽の感情が、ある一線を越えた時の、心の叫びであり、人間が持ち合わせた「心の表現力」なのかもしれない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1151a/>

「人が涙を流す訳」

2010年10月10日13時29分発行